

The Word Today

No.1013 罪深い

ダグラス・シュレーダー牧師

イエス・キリストの福音を知り、聖書を調べてイエスの生涯を知るにつれて、どれほどの憎しみがイエスに向けられていたかがはっきりとわかるようになります。イエスをおとしめたり、敵対したりする人々が絶えずいました。イエスに向けられた敵意の一つの例が、ヨハネの福音書 8 章に記されています。イエスの語る言葉をとらえて、わなにかけようとする秘かな計画がありました。その箇所を読みましょう。

イエスはオリーブ山に行かれた。そして、朝早く、イエスはもう一度宮に入られた。民衆はみな、みもとに寄って来た。イエスはすわって、彼らに教え始められた。すると、律法学者とパリサイ人が、姦淫の場で捕らえられたひとりの女を連れて来て、真ん中においてから、イエスに言った。「先生。この女は姦淫の現場でつかまえられたのです。モーセは律法の中で、こういう女を石打ちにするように命じています。ところで、あなたは何と言われますか。」彼らはイエスをためしてこう言ったのである。それは、イエスを告発する理由を得るためであった。しかし、イエスは身をかがめて、指で地面に書いておられた。けれども、彼らが問い続けてやめなかったので、イエスは身を起こして言われた。「あなたがたのうちで罪のない者が、最初に彼女に石を投げなさい。」そしてイエスは、もう一度身をかがめて、地面に書かれた。彼らはそれを聞くと、年長者たちから始めて、ひとりひとり出て行き、イエスがひとり残された。女はそのままそこにいた。イエスは身を起こして、その女に言われた。「婦人よ。あの人たちは今どこにいますか。あなたを罪に定める者はなかったのですか。」彼女は言った。「だれもいません。」そこで、イエスは言われた。「わたしもあなたを罪に定めない。行きなさい。今からは決して罪を犯してはなりません。」

自分の罪が公にさらされることは、誰でもいやです。自分の弱さや失敗がすべての人に知られることは、非常に屈辱的でつらいことです。この女性にとって、罪の現場で捕らえられ、宗教界の権威者たちの前に連れて来られ、裁きを受けることは、どれほどの苦しみだったことでしょうか。

律法という観点からしても、この女性に対する扱いはひどいものでした。姦淫を犯すには、二人の人間が必要です。ところが、男性は連れ出されていません。イエスに敵対する者たちは、なんとかしてイエスを追い詰めようとしたの

です。実際、そのために、彼らが姦淫を背後で画策して、この女性をもわなにかけたのかもしれませんが。私たちには、確かなことはわかりませんが、要するに、この女性は連れ出されたけれども、相手の男性は逃れているのです。

世界の多くの地域では、女性は不当な扱いを受けています。女性は余分に重荷を負わされたり、男性から恥ずべき取り扱いを受けたりしています。この聖書箇所もその一つの例です。けれども、イエスは責めたてられているこの女性を擁護しました。キリスト教ではそうです。イエスは女性に敬意を払うように身をもって示し、女性の地位を高めました。イエスは女性と話をし、女性に敬意を払いました。ところが、私たちの世界の多くの文化では、女性を見下げたり、虐待したりしています。キリスト教は、世界の女性の地位を高めることに尽くしてきました。これは私たちがどれほど感謝してもしきれないところです。

この女性は、イエスに敵対する、パリサイ人や律法学者の道具として連れて来られました。彼らはイエスをわなにかけ、窮地に追い込もうとしたのです。もし、イエスが旧約聖書のモーセの律法を認めるのであれば、律法によれば姦淫を犯す者は石打ちにされなければならないのだから、イエスはこの女性を罪に定めなければならないくなります。そうするなら、罪人たちの友としての、イエスの立場が危うくなります。

一方、もしイエスがモーセの律法に違反するなら、神の律法に敵対することになります。そこで、イエスはどうされたのでしょうか？キリストは神であり、罪のないお方ですから、完全な答えを持っておられました。イエスを責めようとした人々に向かって、彼らの問いを投げ返されたのです。「あなたが自分には罪がないと言えるなら、彼女に石を投げなさい」と。明らかに、その場の人々は、自分たちも罪人であり、罪を犯した者なので、その女性を罪に定めることはできないとわかりました。

イエスがかがんで、地面に何かを書いておられたというのは、興味深いことです。私たちには、イエスが指で何を書いておられたのか、それを知る手はありません。けれども、この女性を罪に定めようと、周りに立っていた人たちの秘密の罪を書き始めたのではと推測する人たちがいます。確かな答えを知ることはできませんが、もしそうだとしたら、彼らの注目を集めたことでしょう。

イエスは人を罪に定めるために来られたのではないことを、私たちは理解しておく必要があります。イエスは人を救うために来られました。パリサイ人や律法学者たちのように、高慢で、自分を正しいとする人々に対しては、イエスは立ち向かわれました。けれども、イエスがこの地上に来られた一番の目的は、失われた人々を探して救い出すためです。イエスはご自分を、良い羊飼いと称されました。主は羊を導こうとしておられます。私たちを、サタンや罪深い世

や私たち自身の罪深い肉という私たちの敵から解放しようとしておられます。主は救いの必要な人々を探したいのです。主は、「医者が必要とするのは丈夫な者ではなく、病人です」とも言われました。罪に対する治療法である、神の赦しをもたらすために、医者であるイエスが来られたのです。

私たちがよく理解しておかなければならないのは、私たちは誰もほかの人を裁くことはできないことです。私たちの誰も完全な者はいませんから、高ぶって、「自分はほかの人よりもきよい」などと言うことはできません。あなたがそのような思いになったときは、高ぶっており、自分を正しいとし、ほかの人の罪を裁くようになります。ところが、あなた自身罪人なのです。神は私たちの心や思いをはかるお方であることを、私たちはみな理解しなければなりません。あなたが姦淫や盗みを犯したことがないからといって、あなたの動機や思いが純粹であるということではありません。あなたは、悪い、邪悪な思いを持ったことがあるでしょう。実際に行動に移さなくても、内側で誘惑に屈したことがあるでしょう。ですから、私たちの誰一人として、人を赦そうとせず、ほかの人を罪に定めることはできないのです。このことは、今回の箇所イエスが私たちに教えておられる、もっとも大きな教訓の一つです。

この女性を罪に定めることができる正しい人は、ほかならぬ、ただイエスだけでした。イエスには罪はありませんでした。その女性を責めたてていた人たちは、イエスを責めることはできませんでした。けれども、イエスは赦すことを選びました。これは、神の愛のあり方の重要な点です。イエスは私たちに罪に定め、罰を与えることのできる立場におられます。けれども、私たちに罪に定めるのではなく、私たちに赦しを与えことを選び、そのために来られました。神の怒りではなく、恵みを持って来られました。

だから、イエスはその女性に、「わたしもあなたを罪に定めない」と言われたのです。と同時に、イエスは心を改めることを求めておられることに注目してください。イエスは悔い改め、つまり罪から離れることを求めておられます。イエスはその女性に言われました。「行きなさい。今からは決して罪を犯してはなりません。」

神があなたを赦すという選択をされ、あなたに赦しを与えられたのですから、あなたは罪から離れ、もう罪を犯さないようにする必要があります。そのためには、祈りが必要です。誘惑に気づき、避けることができるように、聖霊に助けを求める必要があります。そうするとき、神からの恵みと回復を得ます。今回の話から、人間は人を裁いたり罪に定めようとしたりしやすい者であることがわかります。この話の中で、律法学者やパリサイ人はイエスをわなにかけて、イエスの宣教をだいなしにするために、女性を連れてきました。私たちは、自分を正しいとし、私たちの気づいたほかの人の罪を責めるという誘惑を受ける

ことがしばしばあります。私たちにはそのようなことをする権利はありません。もちろん、ほかの人が悔い改めて、罪を離れるように勧めたいということは、別です。けれども、ほかの人に後ろ指をさして、「あの人は神の裁きを受けるに足る」と、どうして言うことができますか？あなた自身、そのような者なのです。

私たちは、神の赦しを受けたことに対して感謝し、謙遜でいなければなりません。高ぶって、ほかの人を裁くべきではありません。神は人に罰を与えるのではなく、救うことを願っておられます。私たちは自分自身の罪を認め、神の前にへりくだる必要があります。そうすることで、罪の中でへりくだり、神も罪に定めないというすばらしい知らせを聞いた女性のようになることができます。

そのような心構えを持ち、ほかの人にそのような思いで接してください。私たちは完全ではなく、神の赦しと憐れみを受けることができるのは、ただイエス・キリストにある神の憐れみによるのです。